

日本消化器病学会・日本肝臓学会が、「MASLD（代謝機能障害関連脂肪性肝疾患）診療ガイドライン改訂第3版」を発売しました（2026年4月）

日本消化器病学会ホームページ

<https://www.jsge.or.jp/news/20260401-6/>

<改定のポイント>

- ・脂肪性肝疾患（脂肪肝）が改めて全身疾患として定義された
- ・MASLDの診断において、BMI、糖代謝異常、高血圧、脂質異常症などの心代謝系危険因子の確認が中心となり、MetALD（代謝・アルコール関連脂肪性肝疾患）の概念が加わった
- ・肝生検がMASLDの診断の「必須」項目から外れた

※治療面において生活習慣介入が中心である点は従来と変わらず、肥満、糖尿病の合併例、線維化進展を伴う例では、早期から積極的介入を行う方向性がより明確になった。

<MASLD診断フロー>

- 1) 肥満：BMI \geq 23kg/m² or 腹囲男性>94cm・女性>80cm
- 2) 血糖：空腹時 \geq 100mg/dL or 食後2時間 \geq 140mg/dL or HbA1c \geq 5.7% or 2型糖尿病 or その治療
- 3) 血圧：収縮期 \geq 130mmHg or 拡張期 \geq 85mmHg or 降圧薬内服
- 4) 中性脂肪： \geq 150mg/dL or 脂質異常症治療薬内服
- 5) HDL：男性 \leq 40mg/dL、女性 \leq 50mg/dL or 脂質異常症治療薬内服

※これらのリスク因子が1つ以上あり、かつ飲酒量が基準未満（純エタノール量：男性30g/日未満・女性20g/日未満）であればMASLDと診断される。

<改定の背景>

・NAFLD（非アルコール性脂肪性肝疾患）/NASH（非アルコール性脂肪肝炎）の疾患名称が国際的にMASLD（metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease）/MASH（metabolic dysfunction-associated steatohepatitis）に変更されたことに伴い、日本消化器病学会・日本肝臓学会が2024年8月に「MASLD：代謝機能障害関連脂肪性肝疾患」「MASH：代謝機能障害関連脂肪肝炎」との日本語名を発表した。

・脂肪性肝疾患（脂肪肝）を「SLD（steatotic liver disease）」という1つの大きな疾患群として捉え直し、そのなかで心代謝系危険因子（CMRF）の有無、飲酒量、その他（薬物、ウイルス、遺伝子など）の要因に応じて疾患を再分類したうえで、その中心的な病態としてMASLDが位置付けられた

・本改訂では、これらの新たな疾患名・定義を踏まえた診断・診療体系が提唱された。

<関連サイト>

MASLD診療ガイドライン2026改訂第3版

<https://www.nankodo.co.jp/g/g9784524273324/>